輝く！女性若手研究者たち
ー大学戦略推進機構系 グローバルエクセレンスー

卓越した実績や将来性が認められる若手女性研究者に、自立した研究の機会を用意し支援することを目的とした栴檀プログラム。平成26年度にスタートし、今、さまざまな分野で12人の研究者が、熱くしなやかに活躍しています。現在、彼女たちを取り巻く環境とはどのようなものなのでしょうか。

井戸 美里 講師 平成28年1月着任
【研究テーマ】 日本の中世美術
室町・桃山時代の日本の美術、主に絵画について研究しています。国際共同研究として「やまと絵の場と機能をめぐる受容美学的研究」があり、これからも日本の美術をグローバルな視点でとらえ海外の日本美術の研究者とともに研究していきたいと思っています。

岡久 陽子 助教 平成28年3月着任
【研究テーマ】 木質材料化学
竹をはじめとする草木バイオマス資源の利活用を研究しています。植物の利用は植物を知ることから。細胞壁構造の解析やセルロースナノファイバー製造手法の検討などを行っています。また、放置竹林の増加から、竹を有効活用する方法やシステム作りにも取り組みたいと思っています。

福山 真央 助教 平成27年3月着任
【研究テーマ】 マイクロ水滴を利用した微少量化学・生化学分析
マイクロメートルサイズの油中水滴（マイクロ水滴）内に試料や試薬を閉じ込め、分析を行う技術の開発をしています。マイクロ水滴内に試料・試薬を閉じ込めると、微少量の試料を拡散希釈することなく測定が可能となります。

西崎 友規子 講師 平成27年3月着任
【研究テーマ】 認知科学、実験心理学
複数課題の同時遂行における個人差など、認知情報処理の個人差とインタラクションの研究を中心に、自動車や機械など産業の現場に心理学を生かすことを目指しています。工学、デザイン学との共同研究にも取り組んでいます。

結婚・子育てへの理解表明がうれしい

福山 よく栴檀プログラムに応募した理由を聞かれますが、私の場合は独立研究者としてのポジションが与えられることでした。ナノ液滴を用いた微少量の生化学分析というポスドクの頃からの研究を続けたいと思っていたので、この募集は魅力でした。それと今、私は結婚しているのですが、このポジションならば妊娠や出産のイベントがあっても、ちゃんとしたケアがあるという安心感も大きな魅力でした。

岡久 出産や子育てがしやすいだろうなってすごくわかります。栴檀プログラムの公募文にも書いてありますもんね。5年間のテニュアトラックの間に出産・育児、介護などで休んでいいよって。私はすでに子どもが2人いるので、これからの先生たちがうらやましいと思うほど（笑）。

西崎 私も子どもがいますが、女性の研究者募集でしたので、そういうことへの理解、物理的というよりは精神的な支援があるのだろうなという安心感がありましたね。

井戸 福山先生の研究分野では女性は少ないと思うのですが、そのことは、こちらに来ようと思われた理由にはなりませんでしたか？

福山 ご想像通り、すごく少ないです。周りに出産とかのイベントについての悩みを共有できる同世代の女性がいないということには、たしかにちょっと不安を感じていました。

井戸 日本美術史では大学も大学院も女性が多いですが、教員は男性の比率がとても高いです。研究員の先輩も、独身の方や結婚していても子どものいない方が多いです。もちろん、ご自分たちの意志で子どもを持たれないことも恵まれないこともありますが、躊躇される方も多かったように思います。

西崎 ロールモデルがないので、私たちより少し上の世代の方はイメージが持てないのでは。子育てしながら研究ということに。

井戸 実際、女性が多いにも関わらず、結婚したら研究を続けるのは難しいというようなムードがまだ残っているのは確かですよね。

岡久 今は男女共同参画というものがあって、着任してすぐ担当者から連絡がありましたし、結婚、出産などでサポートも受けられて大変助かりますが、問題はソフト面だと思います。どれだけ周りに背中を押してもらえるか、こんな方法もあるよと教えてもらえるか。結局、そうしたことが復帰につながるんだと思いますし。その点、グローバルエクセレンスは“支えてもらっている感”があります。

西崎 当然のことですけど堂々と出産できるという（笑）。以前の職場も育児休暇制度や在宅勤務制度などいろんな制度がありました。私は幸い、良い上司に恵まれてそれらを使わせてもらっていましたが、他の部署などで男性上司の多くは頭でわかっていても実感がないんだろうなという方もいて、制度を使いにくい、言い出しにくい、と感じている女性の話もよく聞きました。

福山 たしかに、制度がどうかよりも周りの空気がどうかだと本によく書いてあるのを見掛けます。その点、ここでは心配いりませんね。

井戸 私はまだ結婚をしていませんが、みなさんの話を聞いていると、栴檀プログラムは、女性研究者への理解のひとつの形なんだなとつくづく感じます。研究したいという気持ちに、女性だからということで蓋をするのはあまりにももったいないですよね。でも本当は、このようなプログラムがなくても、研究室に男性も女性もごく当たり前にいる、という風になるのがいいのでしょうけど。

西崎 そのための一歩がグローバルエクセレンスだとしたら、私たちこそロールモデルになれるよう頑張りましょう。

研究分野の枠を越えて交流できる環境

井戸　女性ということを取り払っても、研究者として恵まれていると思うのは、研究の時間がたっぷりあること。大学ですと若い人は雑務に追われて、なかなか研究できる時間が取れないものですけど。福山先生がさっき言われたように独立した立場ということもありますし、"研究できるときにきちっと研究して下さい"という環境を用意してくれていることは、大変ありがたいと思っているんです。

岡久　私は前はポスドクでしたが比較的自由に研究させてもらっていて、今、立場が変わっても同じように研究メインにできているので快適です。

井戸　いい環境が続いておられますね。

西崎　私は前職は自動車メーカーの研究所にいたので比べるのは難しいですが、工繊大では研究分野の枠を越え、たとえば人工知能の先生やデザイン系の先生方と一緒に研究をしたりして、視野や考え方の幅が広がったと実感しています。決して大規模ではない大学だからこそ、自分の意志さえあればフレキシブルに動ける。わかりません、教えて下さいということに対してオープンに対応して下さる先生が多いという印象です。

福山　確かに研究室間の垣根は低いと思います。実際、私もこれまでに生物系の先生に実験操作とか色々教えていただきまして、共同で研究をさせてもらっています。

西崎　予算的に買えないものとか……。

福山　ええ。

井戸　工美融合というのはいろんな大学でいわれていますが、工繊大ほど実践的に共存しているところは珍しいですよね。

それぞれの夢に向かってこれからも

岡久　みなさんが、ここで目指したいことって何ですか?普段お話する機会がないのでぜひお聞きしてみたくて。たとえば私は、学生の頃から竹がちゃんと有効に使ってもらえるシステムを作りたいと思っていて、せっかく竹の産地の京都へ来ることができたのだから、ひとつの最終的な目標もそこに置いています。竹って身近なものなのにどんどん使われなくなって、放置竹林の広がりが京都の北部なんかでは待ったなしの状態です。竹のままでもいい、セルロースでもいい、日本にとって貴重で身近な竹をちゃんと使おうよと提言したいと思っています。

福山　私の場合、目の前で起きている現象に興味があって、どうして起こるんだろう？とか、見てて楽しいなとか、そんなことを考えながら研究しています。そういうことを理解したり利用することで、ゆくゆくは新しい分析の方法につなげて、社会に貢献できれば、と思っています。結局ダメ、ということもよくあるのですが。ちょっとみなさんと違いますね(笑)。心理学は社会に直接応用できることが多いでしょうね。

西崎　でもカウンセリングが唯一と思われていて、人の機能を知ることで物をよくするということは、まだ心理学の主たる領域にはなっていないんですね。産業界もよくわからないからオファーが出しにくい、心理学者もどこへ入ればいいのかわからない。私はあえて企業に飛び込んで、幸いにして迎えてくれる場所があったので、なんとか橋をかけることができたかなとは思うんですけど。今は反対に学術側にいますので、車に限らず、物と生きている人との融合を図りたい。機能として強いもの、速いものということはあっても、人により添ってどうしたらもっといい物ができるかというのは工学にはないので、人に近いところから科学的データを出せればものづくりはさらに進化すると思っています。井戸先生の目標は?

井戸　日本の中世で美術という限られたことをやっているので、どういう風に社会に開いたらいいんだろうといつも思っています。確かな目標としているのは、やはり国際的な立場から日本の美術を発信し世界に理解を深めてもらうこと。共同研究で

は世界における"やまと絵"をテーマにしていますが、海外の研究者とともに研究を深め、留学生にわかりやすく講義するとか、そういうことを積み重ねたいですね。もうひとつ思っているのは、私の担当しているデザイン・建築学系の学生は物を作る道に進むわけですから、日本のモチーフの象徴的意味や文化的背景を理解したうえで、意匠に取り込んでもらえたら素敵だなと。

岡久　とても素敵ですね。今日はいろいろお話できてよかったです。

西崎　心理学的にいうと男女、というか人間にはそれぞれ特異性があります。子育てしながら仕事も、というのは女性のほうが得意な人が多い傾向にあるのはたしかだと思うんですけど、男性がそのことに、たとえ無意識にでも甘えてきたと思うんです。女性だけではなく、男性の努力もお願いしたいものですね。

梅檀（SENDAN）プログラム

職位比率プロポーション改革の一環として、学長直下の大学戦略推進機構グローバルエクセレンスに卓越した若手研究者集団を形成するためのプログラム

名称は、【梅檀は双葉より芳し】との故事に由来。
「梅檀」とは白檀のことをいう。白檀は香木であり、双葉の時から非常によい芳香を放つことから、すぐれた人物は幼少時代から他を逸したものを持っていることの語意から、所属した若手研究者は一層卓越した研究者に成長するという展望を表している。

▶ 本学40歳未満の若手研究者の比率は13.5%と全国立大学平均27.3%の半分程度の水準
▶ 助教1人が教授2.5人、准教授2人を支えている教員組織構造
▶ 女性教員比率が低い傾向（10.4%）

平成26年度・平成27年度の梅檀（SENDAN）プログラムの実施状況

▶ 採用人員：講師又は助教（H26）7分野・（H27）4分野において合計12名
▶ 女性研究者限定（女性教員の割合を高める積極的改善のため）
▶ 5年を上限とするテニュアトラック制度
▶ 年俸制教員として採用

本学女性教員の比率

（H26.5.1現在）
10.4%
▼
H26年度目標値
13.0%
▼
（H27.5.1現在）
13.1%
▼
H27年度（H28.3.31実績）
14.8%

梅檀プログラム全応募者数
H26 **88名**　H27 **46名**